

Syllabus ID	syl.-122024
Subject ID	sub.-122000300
更新履歴	20120328新規
授業科目名	哲学 Philosophy
担当教員名	小柳敦史 KOYANAGI Atsushi
対象クラス	全学科5年生
単位数	2履修単位
必修／選択	必修
開講時期	通年
授業区分	人文・社会・語学等
授業形態	講義
実施場所	5学年各クラスHR

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

哲学の歴史とは、自分たちが生きる世界について問い、より良く生きる方図を探す真摯な知的挑戦の歴史だった。本講義では先人たちのチャレンジを学んだ上で、私たち自らがその歴史に連なる努力をする。具体的には、前期において私たちが享受している科学技術や、私たちが生活を営んでいる近代社会について積み重ねられてきた思想を振り返り、現代の問題を考える武器を手に入れる。そして後期においてこの武器を用いながら、現代の重要な問題の一つである生命倫理について考えていく。後期については学生同士によるディベートも授業の重要な要素となる。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

前期に向けて:特に要しないが、技術とは何であるのか、社会で生活することはどのような営みなのかを各自考えておくことが望ましい。

後期に向けて:生命をめぐる最近の問題にはどのようなものがあるか、新聞・ニュース等に注意を払うこと。

	Weight	目標	説明
学習・教育目標	◎	A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
		D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力を身につける。			

学習・教育目標の達成度検査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験をもって行う。 2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格をもって当該する学習・教育目標の達成とする。 3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。
---------------	--

授業目標

1. 科学技術という営みの意味について反省的に理解し、適切な哲学的概念を用いて説明することができる。
2. 私たちが生きる近代社会のはらむ諸問題について反省的に理解し、適切な哲学的・社会学的概念を用いて説明することができる。
3. 生命倫理の諸問題について、良い面も悪い面も理解した上で、自らの判断を説得力ある根拠とともに示すことができる。

授業計画 (プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション	授業の進め方／哲学とは何か、そしてなぜ学ぶのか	
第2回	イントロダクション(1)	クリティカル・シンキング入門	
第3回	イントロダクション(2)	クリティカル・シンキングと合意形成	
第4回	神話と哲学	古代ギリシアにおける哲学のはじまりを神話との関係から考える	
第5回	呪術・宗教・科学技術	呪術(まじない)と科学技術の違い、両者と宗教との関係を考える	
第6回	科学技術と哲学(1)	近代科学とはどのような営みなのだろうか	
第7回	科学技術と哲学(2)	人間にとって技術とはどのようなものなのだろうか	
第8回	前期中間試験		×
第9回	宗教と科学	宗教と科学は対立するというステレオタイプの妥当性を検討する	

第10回	市民社会と哲学	古代ギリシアの哲学思想を市民社会のための倫理という観点から考える	
第11回	社会学の誕生	オーギュスト・コントによる社会学の創設と「人類教」の試み	
第12回	社会の連帯を求めて	『自殺論』を中心にエミール・デュルケームの社会学が目指したものを考え	
第13回	社会における個人の抑圧(1)	マルクス、エンゲルスによる人間の疎外状況の分析／社会主義の諸潮流	
第14回	社会における個人の抑圧(2)	フロイトなどの精神分析がもたらした知見について	
第15回	支配と自律	マックス・ヴェーバーによる支配の類型論と近代への診断	
第16回	他者の存在を受け止める	ユダヤ系哲学者の思想を手引きに前期の授業を批判的に振り返る	
第17回	前期末試験		×
第18回	後期オリエンテーション	後期の授業のテーマ、進め方、評価などについて	
第19回	生命倫理の諸問題	ディベートテーマの解説と担当者の決定	
第20回	優生学の問題	優生学的な発想の歴史と近代における展開	
第21回	ナチス・ドイツの生命観	健全さの追求が招いたもの	
第22回	日本の優生学	日本への優生学の導入から、優生保護法の問題まで	
第23回	命の誕生と生命倫理(1)	生殖補助技術についての解説	
第24回	命の誕生と生命倫理(2)	生殖補助技術使用の是非についてのディベート	
第25回	後期中間試験		×
第26回	命の誕生と生命倫理(3)	ディベートのまとめと補足	
第27回	安楽死・尊厳死(1)	安楽死／尊厳死とは何か	
第28回	安楽死・尊厳死(2)	安楽死／尊厳死の是非についてのディベート	
第29回	安楽死・尊厳死(3)	ディベートのまとめと補足	
第30回	脳死臓器移植(1)	脳死とはどのような状態なのか・移植医療の歴史	
第31回	脳死臓器移植(2)	脳死臓器移植の是非についてのディベート	
第32回	脳死臓器移植(3)	ディベートのまとめと補足	
第33回	まとめと補足	市民のリテラシーとしての生命倫理	
第34回	学年末試験		×

課題

前期: 必要に応じてアンケートや小レポートを課す。提出は授業時間内に授業教室で行う。

後期: ディベートに対する聴衆の評価をディベート終了直後、ディベート担当者による報告を二回後の授業時に提

提出場所: 授業教室(場合により教員室)

オフィスアワー: 初回の授業時に指示するが、放課後は基本的に教員室に在室している。

評価方法と基準

評価方法:

前期については講義で扱った主題について批判的に検討する姿勢を持てているかを上記課題によって、そして各論点が理解されているかを論述形式の中間試験および期末試験で評価する。

後期については現代の問題に自ら取り組もうとする姿勢を持てているかをディベート中の発言または聴衆としての評価書によって、そして具体的な主題について説得力ある議論を展開することができるかをディベート担当者の報告書または学期末に課すレポートによって評価する。

評価基準:

前期授業中の課題10%、前期中間試験20%、前期末試験20%、ディベート中の発言または聴衆としての評価書10%、ディベート担当者の報告書または後期末レポート40%。

教科書等	使用しない。授業ごとにプリントを配布する。
先修科目	
関連サイトのURL	
授業アンケートへの対応	初年時につき、なし。
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。